

大阪総合デザイン専門学校

学校自己評価報告書

(平成 28 年度)

基準日＝平成 29 年 3 月 31 日

平成 29 年 6 月

学校法人上田学園

大阪総合デザイン専門学校

平成28年度版 大阪総合デザイン専門学校 学校自己評価報告書について

学校法人上田学園は、平成 20 年に、学校自己評価制度導入を図るために自己点検部会を設立し、組織的な体制を築き、部会においては自己点検項目につき、不備な点を拾い出し、その改善に努めてきました。一方、平成 21 年度には、上田学園中長期経営計画を策定し、その中長期経営計画に、自己評価制度部会の活動が反映していくような体制を築いてきました。

平成 25 年度には中期経営計画の中間総括をおこない、目標の達成により、第2次中期経営計画を策定し、新たな目標設定を行いました。

また、職業実践専門課程の認定に取り組む中で平成 25 年度より教育課程編成委員会、学校関係者評価委員会の設置を行い、カリキュラム組成、自己点検等に外部関係者の意見を積極的に取り込むよう努めております。

今年度も、自己点検制度に対する学園の取り組みを、一般公開することで、学園が更に取り組むべき点を内外に明らかにして、社会的責任を果たしていきたいと考えております。

平成 29 年 6 月

学校法人上田学園 理事長 上田哲也
大阪総合デザイン専門学校 学校長 越田英喜

平成28年度自己点検制度推進部会
大阪総合デザイン専門学校
上田安子服飾専門学校
大阪エンタテインメントデザイン専門学校
上記各学校の事務統括 教務部長 学生部長
メディアセンター
学園本部

基準1 教育理念・目的・育成人材像等

1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか。

学園として、創立者上田安子の理念を継承している。当校の教育理念は「技術」「感性」「知性」「時代性」の各々の要素のひとつひとつを丹念に培いながら、さらに4つの要素をバランス良く兼ね備えたデザイン業界を担う人材を育てることである。

この理念に関しては継承する方針であるが、教育方針は育成すべき人材像を念頭に、時代に即して見直しを行う。

これらの教育理念は、全教職員に学内サイトにアップロードして周知するとともに、学外への周知徹底は学園本部の広報用サイトを利用していく。

1-2 学校の特色は何か

平成27年に、創立50周年を迎えた伝統あるデザイン校として、多くの卒業生を社会に送り出している。平成25年度に職業実践専門課程の文科省認定を受けたビジュアルコミュニケーションデザイン学科・インテリアデザイン学科をはじめ、漫画、コミックアート、イラストレーション、フィギュアといったクリエイターを養成する学科があり、都心の特色あるデザイン系専門学校として、社会的信用が得られている。また4年制の高度専門士の称号を授与されるブランド創造学科も平成26年度に職業実践専門課程の認定を受けた。姉妹校として、75年の歴史を持つファッション系専門学校として上田安子服飾専門学校と平成26年4月に開校した大阪エンタテインメントデザイン専門学校があり、上田学園は三校体制のファッションとデザインの学園として知られている。

1-3 学校の将来構想を抱いているか

平成21年度末に5ヶ年を期間とする上田学園中長期経営計画を策定した。平成25年度には中長期経営計画の中間総括をおこない、目標の達成により、第2次中期経営計画を策定し、新たな目標設定を行い、在校生600名体制の維持と創立50周年に踏まえての事業多角化戦略を柱に経営戦略を構築した。引き続き定例的に中長期計画策定委員会を開催し、適宜見直しを図っている。

学園本部では、(1)財務計画、校舎・設備計画にそった各校事業支援、(2)人事評価制度を含めた人事政策、(3)社会的責任の実現(個人情報・自己点検部会、衛生委員会等)の3大方針で学園改革を進めている。

1-4 学校の理念、将来構想などが学生・保護者等に周知されているか

入学時の説明会および保護者説明会やパンフレットでの広報、入学後は学園サイトでの広報により周知している。

1-5 学科の教育目標、育成人材像は業界のニーズに向けられているか

25年度職業実践専門課程の認定に伴い企業、業界団体、学識者で構成する教育課程編成委員会を設けて学外の意見を受け、それをもとに学科の教育目標、育成人材像について教員会議で検討し、業界のニーズに向けたカリキュラムを策定することとしている。

基準2 学校運営

2-1 運営方針は定められているか

学園・学校運営方針に関しては、上田学園中長期経営計画を策定している。これに基づき入学者数、退学率、就職率、コスト削減などの業務目標の項目を定めている。これらは人事評価の業務目標策定時に教職員に徹底している。

学園もしくは学校機構の改革に関しては、常務理事会、経営会議、中長期経営計画推進委員会で検討を行っている。

2-2 事業計画は定められているか。

事業計画については1-3項目の記載通り、上田学園中長期経営計画を策定し、これに基づき年度ごとの計画を理事会の審議を経て策定し実現に努めている。

2-3 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか。

「組織規程」を定め運営組織を明確にしている。さらにこの組織規定の定めを受けて「事務分掌細則」を定め、各部の業務を明らかにしている。また、「学校法人上田学園稟議規則」「学校法人上田学園業務委任規則」により意思決定機能を明確に定めている。

以上の規定等により当校は教務部、学生部における業務の分担が明確化されており、それにもとづいて、効率的な業務推進がなされている。校長が教務部、学生部を掌握して、各学校の経営を教育的観点、財務的観点両方から行っている。さらに、平成23年度から校長を補佐する事務統括職を設け、組織運営のかなめとして運営を効率的なものとしている。

2-4 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか。

給与規程、常勤講師給与規定を定めて運用している。また、人事評価規程を定め人事評価制度を導入している。これにより現場での目標管理とその人事評価は制度として根付いた。今後、自己管理的な制度の趣旨について理解の浸透をすすめる、教職員側からの積極的な運用を図ることとしている。また、学園・学校目標を現場に浸透させ、現場に近い、各学科の目標、及び学科長の評価に重点を移していくため、学科長により各被考課者の目標設定と評価にこれまで以上に関与する制度にする、また、資格規程を定め教職員のインセンティブを高めている。

2-5 意思決定システムは確立されているか。

最終決定機関の理事会・評議会のほかに、常務理事会を設けて、学園全体の組織・人事・中長期経営計画等の方針案を検討するほか日常的事務については決定権を理事会から委任されている。常務理事会は両校長を含め実務的な理事により構成されている。また、各校の個別人事・予算・行事等の一般的事項については校長が決定するが、重要事項については経営会議で、両校の責任者の意見を聞いて、理事長が決定することとしている。

経理については経営会議決議事項の対象であるなしに係らず、5万円以上の案件に関しては支払稟議書でもって回章捺印し、理事長決裁(10万円以下校長決裁)とし、理事長、各校長ほか各部門責任者の共通認識を得ている。

平成27年11月以降、稟議システム(楽々精算)を導入し、スムーズな稟議決裁を行っており、透明性が高まることで、内部統制面でも有効に働いているとみている。

2-6 コンプライアンス体制が整備されているか

教育機関として、法令遵守は当然の責務であり、業界や地域社会等の関わりにおいても、些かも法令に抵触することの無いよう学校運営に心がけている。事あるごと、学園本部を窓口に関係機関に助言を求めながら進めてきたが、今後はコンプライアンスのマニュアル化等、体制の整備が必要である。

2-7 情報公開が適切になされているか

「学校法人上田学園情報公開に関する規程」を定め、(1)財務諸表に関する情報(2)自己点検・評価の結果の公表(3)シラバス他教育活動にかかわる情報(4)その他、法令により義務付けられ他情報、を学園のホームページ上で公開している。

2-8 情報システム化等による業務の効率化が図られているか

業務管理システムとしては、入学希望時点から卒業までの(募集・教務・成績・学費・就職)それぞれのシステムがあり、連携して効率的な運用を図っている。その他、勤務・給与・財務・資産の各管理システムでも業務の効率化が図られている。

情報システムを管理するサーバーームでは、各部署毎にファイルサーバーを設置しデータの保管・共有化を図り、定期的なバックアップにより保守している。

情報共有については、ローカルネットワーク内ではファイルサーバーを使用し、ローカルのエリアを超える場合にはオンラインアプリケーション(GoogleApps)を利用している。

情報通信教育推進室

情報通信教育推進室は、平成20年度の設立以降、シラバス等カリキュラムバンクである「上田学園リポジトリ」サイトの構築・運用、「上田学園サイト」の構築・運用、クラウド活用による「動画eラーニング」サイトの構築・運用等、ウェブの積極活用に注力してきた。

平成28年度は、学園3校の広報サイトへのポータル(入り口)としての役割を持ち、学園全体の広報、情報公開ツールとして位置付けられる「上田学園サイト」(www.uedagakuen.ac.jp)の更新頻度を昨年度よりも大幅に高めた。3年前の全面リニューアル時に導入した

CMS(コンテンツ管理システム)をフル活用し、学園3校のトピックスを定期的に発信して、学園全体の広報ツールとしての役割をより高めた。

基準3 教育活動

3-1 各学科の教育目標、人材育成像は、その学科に対応する業界のニーズに向けて正しく方向付けられているか

各学科のカリキュラムは学校の教育理念の下、各学科の特色・教育目標・育成人材像を達成するように策定し、業界及び学生のニーズが反映されるよう、見直しを行っている。

カリキュラム編成において必要科目を設定し、各科目のシラバス(授業概要)を作成している。在校生には年度当

初、入学・進級ガイダンス時に担任教員からシラバスを配布し、事前説明をすることで学習意欲を促している。また、WEB上のOSCD機関リポジトリに於いてシラバスを公開している。

3-2 各学科の教育目標、人材育成像を構成する知識、技術、人間性等は、業界のニーズレベルに照らしてまた学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められているか

各学科に於いて関連分野の業界のニーズを把握するように努め、教育目標、人材育成像を構成する知識、技術、人間性等を養成するカリキュラム設計を行っている。また学生が業界のニーズレベルに到達できるよう教育内容及び教育期間を設定している。

平成25年度より職業実践専門課程の認定を受けた学科においては、年2回開催される教育課程編成委員会において、企業委員の方より、業界、現場で必要とされる知識・技術・人材像等に関するご意見を頂戴し、より実践的なカリキュラムになるよう改善に努めている。平成28年度には、未だ職業実践専門課程の認定を受けていない全ての学科にも教育課程編成委員会を設置し、年2回開催することで、現場の委員の方からのご意見をもとに、より実践的なカリキュラムになるよう企業連携等の導入を行った。

3-3 カリキュラムは体系的に編成されているか

各学科のカリキュラムは、基本的な知識、技術を身に付ける基礎必修科目、各学科の特徴となる専門的な知識・技術の習得を目標とした専門必修科目、更に専門性の幅を広げるための自由度のある選択科目によって構成されている。教育目標と各科目の繋がりを明確にすることに重点を置いてカリキュラムを編成している。

3-4 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか

各学科の教育目標、人材育成像により構造的に設計されたカリキュラムに基づき、それを具現化するため各科目を設定している。各科目は、その知識・技術の習熟度のレベルにより、配当年度、時期を設定している。また必要性により、必修科目、選択科目の設定を行っている。

3-5 授業評価の実施体制はあるか

平成23年度より全科目全クラスを対象に前期末・学年末時に授業アンケートを行っている。授業改善、カリキュラム全体設計の資料を得ること、また学校全体の教育体制を向上化するための授業評価の実施体制のひとつとした。質問項目は、教員の授業方法・対応、教育効果、学生の受講姿勢の自己評価、教育環境、総合評価に渡る全15項目とし、マークシートによる集合方式で行った。平成24年度からは記述項目を文字データ化し、担当教員に学生の声が届くようにした。導入から5年を経て、当初レーダーチャートでみる全体集計結果が、全項目各5ポイント中3.9ポイント前後であったものが、4.1ポイント前後と0.2ポイント上昇している。

3-6 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか

教員の採用にあたっては、推薦方式と一般公募の2方式をとり履歴書・職務経歴書などの提出書類を精査し、育成目標に向け授業を行うことが出来る要件を備えているか判断し採用している。

専任・常勤の教員に対しては外部及び内部研修に参加を促しており教育力の向上に努めている。

3-7 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか

成績評価の方法は評価基準を明示しており、進級・卒業判定の方法は進級・卒業判定基準に明示されている。入学・進級ガイダンスにおいて学修ガイドに明示された内容を担任教員が説明し、在學生に周知している。教科の各単位数は、学修ガイドに明示されている。他校との単位互換制度はないが、姉妹校と合同で外国語(英語・フランス語)の自由選択の講座を開講している。

3-8 資格取得の指導体制はあるか

各学科のニーズに合わせた検定試験を設定し、「知的財産管理士資格」「ラッピングコーディネーター資格」「ネットショップ検定」などはカリキュラムに組み込み、指導を行っている。

3-9 地域社会との連携や地域性を活かした教育活動が行われているか

本校は、大阪梅田(キタ)という大阪の中心部に立地している。平成 25 年に開業したグランフロント大阪のコンベンションホールや HEP ホールを活用し、コミックアートイベント等を開催している。また、産学連携においても、ビジュアルクリエイター学科では、関西二期会のオペラ講演のポスター制作、芝田商店会のハロウィン／梅田スノーマンフェスティバルのバナー及びクリスマスツリーを制作。ブランド創造学科では大阪中央青果(株)と連携し、「高級果実の贈答・流通箱のデザイン」に取り組んだ。産官の取り組みとしては、青森県弘前市のアイドルユニット「りんご娘プロジェクト」のイメージキャラクターデザインやコンテンツ開発に携わった。

学園としては、平成 21 年兵庫県西宮市に上田安子記念館を設立し、地域住民を招いたファッションショーや音楽コンサートなどの文化活動を行っている。

基準4 教育成果

4-1 就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか

キャリアサポートセンターを設置し、新規求人開拓、就職ガイダンス、業界セミナー、個別面談、模擬面接、就活クラブなど様々な機会を提供しながら在學生の指導にあたっている。

ブランド創造学科、ビジュアルコミュニケーションデザイン学科においては、「キャリアデザイン」がカリキュラムに組み込まれており、ビジュアルクリエイター学科、コミックアート学科では「ポートフォリオ制作」をカリキュラム化することで、卒業後もクリエイターとして活動していく術を習得させている。平成 29 年度からは全学科において、1 年次の授業科目のなかにキャリアガイダンスの授業を数回組み込むよう、カリキュラムの改変を行った。

また、インテリアデザイン学科、漫画学科においては、2 年次に教員同伴で東京への就職活動ツアー、作品持ち込みツアーが実施されており、学科の特性に応じたフォロー体制をとっている。

4-2 資格取得率の向上が図られているか

各学科のニーズに合った取得目標資格を設定し、カリキュラムに組み込んで指導を行ったり、資格試験の日程に合わせて、対策講座、直前講座などを実施し、取得率の向上を目指している。

4-3 退学率の低減が図られているか

当校では、退学率 10%以下という目標を定め、学生個々人の状況把握ならびにフォローアップに努めている。学生各自の出席状況は、コンピュータ上で担任教員が常時確認できるようシステム化している。出席率の低さは退

学の兆候を示しており、それらを早期に把握し教務の担当者(心理カウンセラー)と協議し担任教員が面談する。健康上や精神面の問題のある長期欠席者等に関しては心理カウンセラーが直接面談する場合がある。また、4月には臨床心理士と教員の懇談会を設定し、精神面に問題のある新1年生に対する今後の対応等について検討を行っている。平成24年度より、月2~4回程度、臨床心理士によるカウンセリングを実施している。金銭面で止むを得ず退学に至る学生が増える傾向にあるが、各種の奨学金に関する情報を学修ガイドに明示し対応している。

4-4 卒業生・在校生の社会的な活動及び評価を把握しているか

卒業生で自主運営する同窓会を平成14年に組織し、それに伴い毎年、各方面で社会的に活躍している卒業生を招き、在学生を対象に同窓会フォーラムを開催してきた。しかし、創立50年という歴史の中で、時代性ととも学科の統廃合を実施してきたこともあり、組織化以前の卒業生の情報は完全に把握できていない。卒業生等が個展やグループ展を開催する情報を得た場合は、教員や在校生が見学を訪れ、情報交換の場としている。また、産学連携事業を実施し、在校生の作品発表時には卒業生の就職先企業に審査依頼をするなど、外部評価の機会を増やしている。

なお、基準3, 4に関し、学科毎の課題・改善点については、別添にて明記しております。

基準5 学生支援

5-1 就職・進学指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか

就職指導はキャリアサポートセンターが各学科長との連携により実施している。指導は計画されたスケジュールに沿って1年次より卒業まで進められる。内容は多岐にわたり、キャリアガイダンスでの就職に対する意識付け、一般教養試験対策講座、ポートフォリオ作成指導、マナー講座、模擬面接、個別カウンセリングや年1~2回のインターンシップ等を順次行い、希望職種への就職や進学を目指す。一方、企業訪問等による求人企業開拓も通年で実施し、就職実績企業については卒業生のフォローアップなども行っている。卒業後の学生についても可能な限り把握し、企業紹介をするなど適切な対応に努めている。

5-2 学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか

学生生活全般にわたる種々の問題についての相談は基本的に担任教員もしくは事務局が対応している。また、心理的な問題に関しては、必要に応じ教務の担当者(心理カウンセラー)がカウンセリングにあたる。さらに臨床心理士による担任教員との懇談会や研修会も行っている。平成24年度からは、月に2~4回程度、臨床心理士による学生カウンセリングを実施し、教務担当者並びに担任との連携を図りながら対応に当たっている。留学生に対しては、国際交流課が、ビザの発給などの支援業務を行っている。

5-3 学生の経済的側面に対する支援が全体的に整備され、有効に機能しているか

経済的支援が必要な在学生に対しては、日本学生支援機構、日本政策金融公庫(保証料全額学園負担)などの公的制度を活用するほか、本校独自制度を設けている。入学前に実施している特待生試験制度、入学後成績上位者に適用される成績優秀者特待生制度、自宅外

の通学者に適用される自宅外通学奨学生制度、上田学園兄弟姉妹入学制度のほか、学費分納・延納制度、学費ローンの利子分を支給する提携教育ローンなどがある。各種奨学金については学生部が窓口となり、入学後に説明会も実施している。災害時など緊急の際は、ただちに在學生に周知し、公的資金を活用する。近年、経済的理由による奨学金活用者が4割を超えたことから、このような経済面での支援策を今後もすすめていく。

5-4 学生の健康管理を担う組織体制があり、有効に機能しているか

学校保健法に従い、毎年度4月に定期健康診断を実施している。診断は業者委託し、結果は在學生に配付する。学校医は学校の正面にあり、健康相談等を出来る体制にある。

また、校医にて対応できない場合は、近くにある済生会中津病院にて、対応を依頼している。在學生からの健康上の相談や、学内での発病、事故などの際は担当の教職員が適切な対応を行えるよう連絡、連携体制を整備している。

また、AEDを設置していて、教職員への使用方法の研修も実施している。

* AED（自動体外式除細動器）とは人体に取り付け、電気ショックによって心臓の働きを回復させるための救命装置です。平成17年より一般の人でも使用が認められている。

5-5 課外活動に対する支援体制は整備され、有効に機能しているか

課外活動としては、当校独自のコミックアートフェスタなどのイベント企画展や東京幕張で開催される「東京ゲームショー」や「ワンダーフェスティバル」に学校の出展ブースを設ける際の会場費等を補助しており、学生が制作した作品を展示することで、来場者の反応や評価を直接感じる機会となり、学生のモチベーションの向上に繋がっている。

5-6 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか

学生寮は業務委託している業者が運営している指定寮が男女共複数あり、希望者が利用している。各学生寮の運営状況等については、業者より定期的に報告があり、把握している。

何らかの問題があった場合は、業者または在學生からの申出・相談により解決に向けての対策を協議する。また、入學生向けにホームページを開設し、情報の公開を実施している。

5-7 保護者と適切に連携しているか

学年当初に学修ガイド及びシラバス、就職指導報告書を保護者宛に送付し、年間の教育計画・目標を報告している。前期末・学年末の成績評価を保護者宛に送付し、学生の修学状況（出席など）において必要がある場合は、教務部と連携し担任教職員が保護者に連絡を取っている。

また、場合によっては3者面談などを行う場合がある。

5-8 卒業生への支援体制はあるか

卒業又は修了者は同窓会会員となる。同窓会長・副会長・運営委員・役員は卒業生から選出され構成されている。「1.会員相互の親睦を通じて本校の教育と事業の発展に資すること。2.会員の活動に本校の協力を得て会員の職と事業の発展に資すること。」を目的とし平成14年に組織化され、その事務局は学内に置いている。

行事としては、毎年1回の総会の開催、作品展に合わせた同窓会の開催、卒業制作の優秀作品に対して同窓会会長賞を授与するなどの活動があげられる。また、会報を年1回発行し卒業生に対し学校の現状を報告している。平成28年度からは、会報を Web 上で公開し、メールマガジンを年3回発行している。

別科通信課程、夜間講座等の情報を案内し、卒業後のスキルアップや生涯学習の一助としている。また、受講の際には割引価格を設定し、支援している。またキャリアサポートセンターには、既卒者対象の求人の申し込みがあり、求職者には求人情報の提供をし、転職・再就職の相談に応じている。

平成 27 年度には、創立 50 周年を記念した大同窓会を開催し、250名の参加者と交流を図った。

5-9 留学支援や海外との連携による国際教育交流の体制があるか

上田学園中長期戦略である学園における留学生総数の増加(全体学生総数の 10%)を目標としている。日本語学校との共同募集活動戦略や、海外提携日本語学習施設との留学生指定校提携等を通じた活動により、約 10 年間の留学生増加戦略を実施し、近年、外国人留学生数が30名を超え、在籍留学生の国籍もアジア諸国に留まらず欧米等、多岐に及んでいる。現在、①これまでの留学生の安定的な受入戦略(第一フェーズ)から、②より優秀な学生をより確実に獲得していく為の成長戦略(第二フェーズ)への移行が重要であると捉えている。

卒業した外国人留学生の日本国内就職率も増加の傾向にあり、ビジネスビザ取得状況もほぼ100%を維持している。「就職に強い専門学校」との評判が高まり、海外教育施設(主として台湾・中国)からの斡旋により日本語学校を経由せずに入学してくる外国人留学生数も増加しており、今後もよりいっそう増えることが見込まれる。外国人留学生の選考、受入れ、在籍管理、ビザ取得サポート等の業務について体系化されている専門学校が少ないなか、当学園では外国人留学生教育にも強い学園として、他校との差別化が図られている。

平成25年度より卒業生の就職活動ビザの斡旋を行っている。

国際交流については4年制のブランド創造学科では海外研修がカリキュラムに組み込まれている。またインテリア学科では海外の交流校と共通課題で制作した作品及びプレゼンテーションの様子を YOU TUBE で公開している。

27年度には上田学園としての海外戦略を構築するための検討を行い、新たに28年度から国際化推進室を設置して事業に取り組むこととなった。

国際化推進室

今後の上田学園の国際化の将来像を描くと共に、上田学園の各校が独自に進めて来た国外関係校との国際交流、関係強化に協力し、バックアップしていく。各校と国際化に関する情報を共有する為に各校と適宜情報交換を行う。また各校が今後進める提携関係の書類等に関しては、国際化推進室で可能な限り統一化し、一元管理を目指している。

上田学園の3校それぞれと個別に協力関係にある海外の学校が、実は上田学園の他の2校とも学科が共通しており、本来は学園全体でよい協力関係を持つことが出来る相手校であることがあとで判明するケースが複数ある。

国際化に関し3校それぞれが持っているアイデアが他の2校の国際化には活かされていないケースもある。学園全体で国際化を効率的に進めることが出来るよう、国際化に関しても学園全体での情報共有を目指している。

基準6 教育環境

6-1 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか

教育に直接関連する施設・設備教育関連備品は学生数など必要性に応じて整備している。

普通教室以外の設備としては、PC実習室、フィギュア製作実習教室、塗装ブース、学生ホールなどがある。また平成年に全館無線 LAN 化が完了している。

また、平成 24 年度より i-pad の導入を進めており、コミックアート学科の2教室に各40台を設置し、他学科へは、授業の必要性に応じて教員が貸出し、IT スキルの向上を補完している。また、PC教室に設置しているタブレットを1教室は液晶タブレットに変更し、高度化を図った。

6-2 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか

学外実習としては、産学連携等の企業先での実習、当校独自のコミックアートフェスタなどのイベント企画展、また各種展覧会の見学や店舗・建築物・商品等のリサーチ、外部講演会の参加などの実地研修や、基礎科目に関する屋外デッサン・動物園でのクロッキーなどがあり、各学科の授業計画に従い教育効果を考え実施している。東京幕張で開催される「東京ゲームショー」や「ワンダーフェスティバル」に学校の出展ブースを設け、学生が制作した作品を展示することで、来場者の反応や評価を直接感じる機会となり、学生のモチベーションの向上に繋がっている。インターンシップは適宜、希望者を対象に実施している。4年制のブランド創造学科では海外研修がカリキュラムに組み込まれており、平成 28 年度は、1～3 年生がイタリアで文化・ブランド(陶磁器メーカー・ワイン・バルサミコ醸造・ヴィオリン工房)の視察を実施した。またインテリア学科では、これまではバルセロナの学校と現地で交流会を行ってきたが、平成 23 年度より、「スペイン課題」として制作した作品を相互で評価するという形で交流を図っており、平成26年度からは YOU TUBE でプレゼンテーションの様子を公開している。

6-3 防災に対する体制は整備されているか

安全確保方策、安全指導體制、災害時の役割分担、情報連絡体制、災害時の行動マニュアル等は各校舎の消防計画書に基づき整備されている。消防施設・設備の整備については、外観点検と総合点検を各年 1 回実施しており、平成 23 年 12 月の総合点検時に確認した不良箇所については既に改善した。防災訓練を平成 23 年 8 月全教職員対象に実施した。避難器具の取扱いについて体験型の実演をした。各校舎の防火管理者を軸に消防計画の見直しを含め、今後も年 1 回以上の実施を行う予定である。今年度は、9 月 5 日に大阪府が実施した「大阪 880 万人訓練」のエリアメールに合わせて、震災時の初期行動の確認を行った。また海外研修旅行先のイタリアで地震が発生していたこともあり、参加者全員に非常用袋を持参させた。

実施学外活動、研修旅行、インターンシップ等、在学生が学外で活動する場合は、危険な作業にあたらせない等の体制を取った上、保険に加入している。また、事前に派遣先との十分な協議をしている。

基準7 学生の募集と受け入れ

7-1 学生募集活動は、適正に行われているか

学生募集にかかる広報活動において、パンフレット・ホームページ等の出稿内容・説明表現については、その真実性・明瞭性・公平性・法令遵守等につき、担当する学生部が十分な配慮を行うとともに、入学希望者に十分な判断材料を提供できるよう実施されている。それらは教務部等でもチェックされている。

モニタリングについては過去にWEBにおいて外部評価を受けたことがあるのみで、常時その体制にはないが、今後は外部評価を受けるべく検討中である。

7-2 学生募集において教育成果は正確に伝えられているか

就職やプロデビュー実績等の教育成果は毎年度データとして把握し、学校案内書やホームページ等にも掲載している。教育成果の広報においては、入学希望者の参考になる情報提供という観点から、事実を正確に伝えている。

7-3 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか

提出書類の願書に記載された将来の希望、高校等での調査書・成績証明書の内容などにより、本校の教育内容への理解や適性をもとに判断している。また留学生については全員に面接を実施しており、日本語能力、経費支弁能力、日本語学校における出席、成績などを総合的に判断している。

7-4 学納金は妥当なものとなっているか

学納金については参考にするのは大阪府専修学校各種連合会の専門学校学費データ、同分野校の学費の状況等である。これによれば、本校の学費等は概ね平均であることから、現状においては妥当性があると判断している。

基準8 財務

8-1 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。

学生数増加と教育環境充実のため、平成21年に中津校舎を購入したが、上田学園として新たに姉妹校、大阪エンタテイメントデザイン専門学校を開校した。そのためここ数年間無借金経営であったが、中津校舎購入時に平成21年度より銀行借入を行なった。今後も運転資金、大阪エンタテイメントデザイン専門学校開設運営資金等で必要に応じて銀行借入を行う。今後とも中長期経営計画に基き、財務基盤の安定を図りつつ、施設設備の充実を図ることとしている。

8-2 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。

毎年、年度後半から当年度の補正予算、及び、翌年度の予算策定にかかっている。中長期計画のレビューは、隔月で行っている。

当年度の補正予算は人件費が固まり、翌年度の募集活動がピークを終えた段階で見直しを始めており、経営会議及び常務理事会で現状を報告している。予算を超える場合には便宜的に、支払稟議でもって各校長・理事長承認を得ている。

翌年度の予算は、学生募集動向が見通せる段階から、予算会議を開始し、3月の予算理事会までに収入の範囲で経費を決定していく。この過程で、事業計画の策定、中長期計画のレビューをも合わせて行なっている。基本金組入れによっては、消費収支差額がマイナスになることもあるので、帰属収支差額を尺度に使用している。予算・収支計画手続きは有効かつ妥当と考える。

8-3 財務について会計監査が適正におこなわれているか。

会計監査契約を交わしている会計士からは、日常の会計上のアドバイスを受けそれに沿うよう業務を見直している。また、公認会計士1名及び企業会計の経験豊富な1名の計2名が、会計監査を含め学園経営の監査を見ている。また、他に、長年学園会計の監査に立ち合った会計士が理事となっており経営に関与している。

8-4 財務情報公開の体制整備はできているか。

他の専門学校に先駆けて、平成18年度より財務情報を学園ホームページに掲載して、一般公開している。

基準9 法令等の遵守

9-1 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。

学校設置基準に係る法令等の遵守については、本部総務部が窓口になって大阪府、大阪市、その他関係機関に逐次相談の上、逸脱しないように図っている。

人権問題、教職員の労務問題には衛生委員会を窓口、個人情報保護の問題には個人情報保護推進部会が窓口になり、定期的に会合を重ね、問題点があれば改善に努めている。夏休みの教職員セミナーでその周知を行い、教職員の法令等の遵守意識を高めるよう行っている。労務問題に

9-2 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。

個人情報保護推進部会を設置して、個人情報の保護に努めている。各部署には機密保護管理責任者を選任し、機密情報の管理・監督・指導を徹底している。

具体的にはプライバシーポリシー・就業規則・機密保護管理規定を策定して運用している。「就業規則」によりパーソナルコンピュータの取り扱いを規定し、学外への持ち出し等を規制している。また、「機密保護管理規定」により個人情報の管理徹底・個人情報の取得・守秘義務等を明記して、情報管理を徹底している。また、ホームページには個人情報の取り扱い・個人情報保護指針をプライバシーポリシーとして掲載している。

平成28年度からのマイナンバー制度の導入により、業者システムを活用してマイナンバーの漏洩防止に努めている。

9-3 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか。

校長、事務統括、部長、学科長によるS会議において自己点検を進め、問題点があり次第、その対処について協議し対処している。平成25年度よりは各校に教育課程編成委員会、学校関係者評価委員会の設置を行い、カリキュラム編成、自己点検等に外部関係者の意見を積極的に取り込むよう努めている。

9-4 自己点検・自己評価結果の公開をしているか。

平成23年度より学校自己評価報告書をホームページで公開している。また、平成25年度より学校関係者評価報告書もホームページで公開している。

基準10 社会貢献

10-1 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか

ブランド創造学科やクリエイター学科では、産学協同事業をカリキュラムに取り入れ、地域の活性化などに貢献

している。

また学園としては、2009年兵庫県西宮市に学園創立者である上田安子記念館を設立し、地域住民を招いたファッションショーや音楽コンサートなどの文化活動を行っている。

上田安子記念館

創立者、上田安子学園長の服飾教育を顕彰し、その教育理念と教育方針を後年に伝える目的で同氏の遺産により上田安子記念館(館長:上田浩)を西宮市に建立、同氏の遺品や勲5等宝冠章を初めとする表彰多数、同氏デザイン制作の衣裳多数、及び、クリスチャン・ディオール(仏)からの参考品を展示している。

地域の服飾、デザインや関連分野に携わる方々に広く役立つことを期待し、予約により一般公開している。地域の文化教養の涵養に資するための「殿山町文化サロン」を継続して定期的に開催。文化人を招聘して教養講座などを開催している。

フランス Granville市のDior 博物館、ParisのDior 本社、上田安子服飾専門学校、西宮市役所、Granville市役所と協力して、西宮市、Granville 市の文化交流促進を目指している。

それを正式に書面に残すべく、フランス Granville市のDior 博物館との交流、提携関係を目指している。

Dior Heritage との資料交換の中で上田安子記念館、上田安子服飾専門学校に貴重な資料があることが判明した。上田安子記念館にある資料ののシステムティックな管理、保管を目指している。

資料の中には経年劣化してきているもあるので保管方法の改善を開始し、さらなる改善を目指している。

ドラマ「女の勲章」放映、毎日新聞の記事掲載、朝日カルチャーセンターでの上田安子記念館に関する言及などで来館者が大変増えている。

上田安子記念館のホームページを適宜更新している。

10-2 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか

学生のボランティア活動への支援は、今のところ行っていないが、各学科において地域活性化の課題をカリキュラムに取入れ、地域等で開催されるイベントへの積極的な参加を促すことで、地域貢献といった社会的役割を担うための意識付けを行っている。

(別紙)

各学科報告

書式統一のため、25年度より文科省の「専修学校における学校評価ガイドライン」に準じて記述している。学科により評価点に差が生じており、項目によっては低評価も見られるが、現状を真摯に受け止め、改善への前向きな姿勢を表している。

(注) 3. 評価項目の達成及び取り組み状況の各項目の数値は、この章の最後に記載している小項目に関する4段階評価(1~4点)の平均値を記載。

ブランド創造学科

■自己評価ガイドライン項目の作成 課題と改善方策

1. 学科の教育目標

ブランド(独自性)の形成を図る「デザインプロデュース」を職能とする専門職人材(4年制高度専門士)の育成。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

インターネットを活用した事業拡大を視野に、Webブランディングの教育体系の実証を図っていくことを目標とした。また、キャラクターやカルチャーといった文化デザインに着想した、プロデュース技能を課題設定した取り組みを目的にした。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

(1)教育理念・目的・人材育成像 (2.6)

【主な取り組み内容】ブランディングを基礎にして具体的なデザイン表現を展開した

【課題】新規創作の着想の中に、現実的な需要の力点をどうポジショニングするかが課題

【改善策】学習テーマ・課題テーマの教育的な高度化が必須と考える

【特記事項】テーマに基づく作品展での発表を検討する

(2)教育活動 (3.9)

【主な取り組み内容】職業実践プログラム「事業拡張に伴うブランド改善の手法」

【課題】単発的な提案策をゴールにしたプログラムでは、成果物のまとめ方・残し方に課題が残る

【改善策】職業実践のプログラム事例を蓄積し、カリキュラムへの位置付けを明確にすることがもとめられる

【特記事項】提携企業先:株式会社ノイエ

(3)学修成果 (3.4)

【主な取り組み内容】Illustrator クリエイター認証資格(エキスパート)の取り組み

【課題】任意取得であるため、将来のビジョンに合わせた意識をどう高めるかが課題

【改善策】コンピュータ授業にて資格取得の促進とともに、担当講師の意識づけを図る

【特記事項】受験者数 2名/合格者数 2名

(4)学生支援 (2.3)

【主な取り組み内容】徳島県立商業高等学校にて「職業理解のプログラム」を実施

【課題】漫画やコミックといった他分野の仕事とひとくりにされている課題

【改善策】デザインの職能が広がっていることへの具体例を個別提示する必要がある

【特記事項】専門学校として職能機能をどう社会に活かせるかが問われる

(5)教育環境 (3)

【主な取り組み内容】イタリア海外研修にて文化・ブランドの視察を実施(陶磁器メーカー・ワイン・バルサミコ醸造・ヴァイオリン工房)

【課題】グローバル化の推進から外国文化への理解が重要になってくる

【改善策】国内外での研修および海外研修の継続的な実施が可能かが課題

【特記事項】2016 年度をもって海外研修は終了

(6) 社会貢献・地域貢献 (1.7)

【主な取組み内容】特になし

【課 題】実施する対外窓口と教務との連携が弱いこと

【改善策】産学連携として導入を図っていく

【特記事項】特になし。

(7) 国際交流 (2.8)

【主な取組み内容】特になし。

【課 題】留学生が日本国内に就労したい希望を持ち始めたときからの指導・支援体制の強化が必要

【改善策】就職部との連携を緊密に図る

【特記事項】特になし

4. 評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

2016 年度実施の作品展発表は、カリキュラムで養成してきたブランディングの視座から、個別具体的な問題提起に的を絞ったデザイン表現を試みたことで、対外企業に向けて強力にアピールすることができた。それはデザインの提案性ではなく、今なにが問題なのかを捉えたリアルな視点をシンプルに打ち出したことによる。その結果、学生による企業対応は、特にブランディングの視点で拡大していく事業に携わるデザインプロダクションにおいて顕著に高い評価を得た。また、他業種で展開拡大していく中で求められる人材のあり方が、学生と結びつくことにもなり、求人やインターン先としても獲得することができた。その反面、業界ニーズに即応する課題テーマは刻々と変化していることを知る機会であり、今後同じ展開では全く通用しいことを予感するに至った。次年度の教育の方向性や作品発表のあり方は、新たな視点で捉えなおさなければならないと考える。

ビジュアルコミュニケーションデザイン学科

■自己評価ガイドライン項目の作成 課題と改善方策

1. 学科の教育目標

人と人、人と物をつなぐビジュアルコミュニケーションデザイン。常に新しい目で現実社会を見つめて、問題を発掘し解決するための思考力、表現力、実行力をもつグラフィックデザイナーを目指す人材を育成する。発想法をしっかり身につけたアイデアマンであり、プレゼンターであり、手描きのラフスケッチからDTP技術までを実践中心の授業で学び、企画提案のできるデザイナーを社会に送り出す。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- 4 専攻制の充実（専攻実習の担当講師の布陣が整ったいま、通常授業と専攻実習の講師間の対話・連携を密にし、4専攻制の魅力ある充実をはかる。）
- 退学者の防止（進んでいる生徒と遅れ気味の生徒の両者をすくい上げていくため、各講座において、複

数層の課題を用意し、生徒個々にきめ細やかに対応できる構造を築く。）

- 就職率100%を目指す。（担任、生徒、キャリアサポ3者の連携を強化する。）
- 実践教育の推進（生徒にとって、やらされ感の強い産学協同プロジェクトは避け、専攻実習の授業において、関係業界との連携を考慮に入れた課題を選定し推進する）

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

(1) 教育理念・目的・人材育成像 (3.6)

【主な取組み内容】魅力的なデザインを産む「魅力的な人間作り」の推進。（感性・知性・技術）

【課題】専門技術の習得と並行して、実生活の中で問題を発掘し、解決策を自主提案する習慣が身につくような、より効果的なカリキュラムの開発。

【改善策】課題が出されてからの情報収集だけではなく、常日頃から気になることをメモしたり、記事や画像を身近にストックしておく習慣が身につくよう、根気よく指導する。

【特記事項】特になし

(2) 教育活動 (3.7)

【主な取組み内容】1年生のパッケージデザインの授業に於いて、江崎グリコ(株)、(株)モンシェール、(株)鶴屋八幡、(株)あみだ池大黒など各社様よりオリエンテーションを受けて、実践的な課題に取り組ませた。

【課題】企業様やお役所あるいは地域団体さまのかかえる問題に接し、現場にふれ、知恵と感性をフル活用し解決策を具体化し提案した後、現場からの生の反応として、現実的なフィードバックを受けるまでの一連の工程を経験できることの価値は大きいですが、ちょうど身の丈に合ったプロジェクトを見つけるのは容易ではない。

【改善策】4 専攻制における専攻実習の授業の新しい課題づくりの中で会社見学や特別講師の招請など、できるだけ業界の現場に接する機会を与える工夫を織り込んでいきたい。

【特記事項】産学協同プロジェクトで、自分のデザインが相手様に認められ採用になることの満足感は経験するものの、その反面、報酬に対する不満とやらされ感のようなものが残るようである。

(3) 学修成果 (2.6)

【主な取組み内容】就職率の向上を計るため、キャリアサポートをキャリアデザインの名称で授業化し、一年後期に必須科目として取り入れている。担任、生徒、キャリアサポート3者の密な連携が望まれる。

【課題】資格取得のための参考書丸暗記的座学に重きを置かず、フレキシブルな対応力をもつクリエイティブ体質の育成を重視する。資格取得希望者には、参考書・問題集の紹介に留める。

【改善策】卒業生の社会的評価や活躍状況などの情報を手に入れるシステム的手段は存在しない。キャリアサポートを通じて、相手企業さまに対し、もと生徒の就業状況の問い合わせをシステム化してはどうかと考える。

【特記事項】特になし

(4) 学生支援 (2.3)

【主な取組み内容】課外活動や生活環境など、学校から一歩外に出た生活に対する支援体制は特にとられていない。

【課題】進路・就職に関する支援体制はより充実を。

【改善策】他の支援体制はそれほどの改善の要を感じない。

【特記事項】特になし。

(5) 教育環境 (2.3)

【主な取組み内容】今年の1年生から全生徒個人でノートパソコンをもてるよう学校が斡旋し、自宅・学校間を持ち歩くことになった。高度なリテラシーを身につけるには肌身離さず常に触れること。2年間の自主トレの必要性を訴えている。

【課題】2年という短い教育期間を考え、インターンシップ、海外研修等について積極的な取組みはしていない。

【改善策】今のところ、これと言った方策はもっていない。

【特記事項】2年間を通じて、社会での即戦力になり得る演習・実習のカリキュラムの充実に、全てがかかっている。

(6) 社会貢献・地域貢献 (1.3)

【主な取組み内容】特別な取組みは行っていない。

【課題】社会貢献は望むところであるが、時間的な余裕がない。

【改善策】産官学協同プロジェクトの進め方において、社会や地域に対する貢献はできると考えている。

【特記事項】特になし。

(7) 国際交流 (2.5)

【主な取組み内容】留学生対策として特別な取組みは今のところない。

【課題】ビジュアルコミュニケーションデザイン学科の最も中心となる広告業界への留学生の就職は、言葉の壁もあって狭き門となっている。日本での就職に限らず、グローバルに市場を求める留学生が出てきたとしても、彼らの学習成果が海外で評価されるような取組みはできていない。

【改善策】留学生に限らず、国内の生徒を含め、デザインのターゲットをますますグローバルに求める時代になりつつある。国内外のデザイン市場の情報収集と学習成果の情報発信への取り組み体制が必要になるのでは。

【特記事項】特になし。

4. 評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

少子化に伴う、大学および専門学校による生徒獲得のための競争はますます激化する。各校共にカリキュラムの充実、就職活動につながる産学協同への取組みなどを強化してくるものと思われる。専門学校として明確な専門性を追求する実践教育を確立し、勝ち残るための魅力づくりが急がれる。他校と比較して学費が少々高くても、生徒や保護者が当校を選択するに足る授業内容あるいは設備内容など画期的なアイデアが見いだせていない。他校の動向と若者の意識の変化などのきめ細かい情報を収集・分析し、起死回生の妙案

が急がれる。

インテリアデザイン学科

■自己評価ガイドライン項目の作成 課題と改善方策

1. 学科の教育目標

空間を読み、理解し、表現できる技術を身につける。建物(建築物)としてだけでなく、空間の中を彩る様々なエレメントを知り、クライアントからの要望を叶える提案力を身につける。また、社会人として必要なコンピュータスキルを身につけ、即戦力となる人材育成を行う。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

インテリア業界で仕事をするという事はどういうことかを理解し、様々な体験を通じて、面白さを感じるように授業を行う。各個人に得意分野を意識させ就職意識を高め、グローバルな視野を持ち、人生に対する高い志を持たせるようにする。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

(1)教育理念・目的・人材育成像 (4.0)

【主な取組み内容】コミュニケーション能力を養い、社会性を身につけさせる為、課題に対してプレゼンテーションを実施。社会人としてのマナーや心構えを意識させ発表。卒業制作では公開プレゼンテーションを行い、社会に必要な第三者の目を取り入れている。コンペ等にも参加し制約がある中でアイデアを出す事に慣れるようにしている。

【課題】インテリアの仕事に魅力を見出し、仕事に熱意を持ち、人間力の高い学生をどのように輩出していくか。学生の能力・意識と社会のニーズとの齟齬を如何にして近づけるか。

【改善策】社会との関係を深めるためにデザインコンペに参加させる。産学協同のお話があれば意欲的に参加する。公開プレゼンテーション等を継続させ、インターンシップへの参加も促し、実際の仕事についての理解を深めるようにする。

【特記事項】人前で自分の考えを話す事に慣れ、社会性を身につけさせる為にプレゼンテーションの実施継続。コミュニケーション能力を上げ、会話をしながら作品のクオリティを上げていく為にグループ課題実施。社会人に必要なスキル・マナー等の向上のための指導を行っている。

(2)教育活動 (3.7)

【主な取組み内容】各課題の目的を明確にし、教員同士でスケジュール管理し連携を取りながら指導をしている。現在仕事に携わり経験が豊富な方を採用している。成績評価基準や判定基準も明確化し、学生にわかるように指導している。

【課題】講師のレベルを高度に保つために経験豊富な方を採用している。時代に即した内容の講義を常に行い、様々な世代の考え方を理解できるようにする為、インテリアデザイン学科としては様々な世代の教員確保が必要である。

【改善策】近年の流行やライフスタイルを理解し提案出来るようにする為、生活全般をデザインする概念を持ち、

空間を提案する技術力を身につける。様々な気付きを与えるような授業をし、様々な年齢層で技術特性を持った教員の確保を行う。

【特記事項】教育カリキュラムに関して、企業からの意見を取り入れ就職するのに必要なスキルを確認している。人材育成に関しても企業や卒業生等からご意見を頂戴し取り組んでいる。

(3)学修成果 (3.8)

【主な取組み内容】就職に必要なコミュニケーション能力強化を目標にプレゼンテーションを実施し、自分の意見を話す事が出来るようにしている。ポートフォリオの制作や卒業制作の公開プレゼンテーション継続。卒業生と連携を取り社会の現状を学生に伝えている。資格に関しては意欲のある学生はサポートしている。

【課題】就職活動を積極的に行いたがらない学生に対して、働く事とはどういう事を理解させ、就職活動を行えるように指導する。学生が働く場を見つけ出せるよう、卒業生の動向を把握できる体制を強化し、行動しやすい環境を作る。

【改善策】キャリアサポートセンターと連携をとり、卒業生の動向を再度確認し、体制を整える。また、作品のポートフォリオ・履歴書・マナーや言葉遣いなども注意し、働く事を理解してもらい、働きたい職種や場所などをイメージし、就職活動を積極的に行っていけるようサポートする。

【特記事項】近年、東京や地方で就職が決まっている学生も多い。就職時に資格に何も書けないという学生のために色彩の資格などをサポート。

(4)学生支援 (3.4)

【主な取組み内容】優秀な学生に対しての奨学金制度あり。学生の健康管理や変化についてはコミュニケーションを取りながら声掛けを行い迅速に対応できるように全教員で対応している。休みがちな学生に対しては保護者にも声をかけ改善するように努めている。

【課題】学生の経済状況悪化。また、教育格差も社会問題になっており、当校だけの努力に限界を感じている。社会的な支援体制が必要でもあり、働きながら学べる体制造りが課題である。学びたい気持ちをその中で如何に維持させるか。

【改善策】様々な環境の変化・家庭環境の変化で経済的に苦勞する学生も多い。そのような学びたい意欲のある学生に対してサポートできるシステムが必要。できる限り学生の負担が少ないように購入材料に関しても考慮している。ただ、この経営困難な時代において充実した支援制度ができるかは一個人の救済では難しい。

【特記事項】多くの専門学校で同じ問題を抱えていると考えられる。これからを担う学生の教育について、公的レベルでの対応が必要である。

(5)教育環境 (3.0)

【主な取組み内容】海外研修について以前は実施していたが学生達の経済状況が悪化したので取りやめている。その代わりに様々な体験ができるような授業になるように工夫はしているが、海外での体験に匹敵するまの刺激には至っていない。設備は徐々に作業しやすいよう整備している。

【課題】工作室の機械の充実や、設備の充実。外部の職人の方々とコラボした授業を取り入れたい。実習の機

会を与えられるように取組みたい。インターンシップについてもキャリアサポートセンターと協力し就職につながるような形にしたい。

【改善策】卒業制作などで、大型で扱いが難しい素材に対しては木工所をお借りするなどの策が必要。また、卒業制作としてデザインをする事に重点を置くなど就職を踏まえて(学びたい方向性)考慮が必要。

【特記事項】工作室の備品の整理、充実をはかっている。

(6)社会貢献・地域貢献 (3.0)

【主な取組み内容】大阪中央支援学校のインテリア学科の学生のプレゼン参加。教員の方と連携が出来ないかと模索中。企業からの要請に対しては協力しているが公共に対する支援などには積極的に応じていないので改善すべき。

【課題】地域連携・社会貢献などを通して地域活性化などのお手伝いを学校として行いたいと考えている。

【改善策】地域のイベントに積極的に参加していく。地域などの要請に対しても答え、社会貢献していきたい。

【特記事項】芝田商店街主催のうめちゃ祭に出展検討。

(7)国際交流 (4.0)

【主な取組み内容】バルセロナにある州立美術学校と研修旅行以来交流があり、現在も課題を共通言語の英語でプレゼンテーションをしたものをWEBを通して発表している。留学生の手続きや生活についてはカウンセリングを行い、どんな状況か話す機会を設けている。声かけも行き授業の理解度も確認している。

【課題】英語でプレゼンテーションすることで海外の学生に対してコンプレックスを無くし、学生達の自信につながっていると考えている。また、フランス語や日本語・英語等の授業も学校として取り組んでいるので、様々な言語に触れることでコンプレックスを無くし、世界で仕事をする事が身近に感じる事が出来るようにしている。

【改善策】授業の中で英語やフランス語の言葉を説明したり、歴史を取り入れ世界のデザインの変遷をまなばせる機会を増やしたい。外国の言葉に慣れさせ、デザインの歴史なども英語の言葉を使用しながら説明し、学ぶ。

【特記事項】英語でプレゼンテーションすることで学生達の自信にもつながっている。(今期からデザイン史は海外の先生に担当してもらっている)

4. 評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

インテリアデザイナーとして“空間をつくる”為には様々な知識が必要で、異なるライフスタイルの人に対し、その人の日常の暮らしをもっと様々な角度から考え、“日常を豊かに”していく発想が出来る事が必要である。また、学んでいることが世界で通用する事を実感してもらえぬ取り組みを行い、興味を持ちながら身近なテーマからグローバルなテーマまで学ばせたい。学んでいることが日本でだけでなく世界に通用する事を実感してもらいたい。また、日常に隠れているデザインに気付き、デザインする楽しさを感じ、仕事としていける人材を育成したい。

漫画学科

■自己評価ガイドライン項目の作成 課題と改善方策

1. 学科の教育目標

漫画作品の制作を中心として、それに伴うカリキュラムを編成し指導する。将来的にプロとして活躍出来る漫画家の育成が目標。在学時、卒業時での実績(新人賞の受賞や商業誌への掲載等)も大事だが、全体として、漫画を創作する上での意識、知識、能力等の底上げを図り、将来に可能性を繋いでいく事の方が、より重要であると考ええる。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

将来にわたって作家活動を継続するための基礎の習得。表面的には、漫画業界の人材ニーズレベルが下がっている。それに伴い新人賞等の受賞レベルが下がっている傾向にある。これは、学生にとってチャンスでもあり、落とし穴でもある。目先の評価に惑わされず、創作を続けられる意識を育てる事が必要である。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

(1)教育理念・目的・人材育成像 (3.4)

【主な取組み内容】作品指導だけではなく、漫画に対する意識の向上を図る。

【課題】新人賞等のレベルの低下により、学生の受賞・デビューといったチャンスは増えてきているが、将来性を視野に入れ、創作活動が継続出来る人材の育成を目標とする。

【改善策】漫画を創作する上での意識の向上。

【特記事項】業界内での新人作家育成レベルの低下を感じる。

(2)教育活動 (2.6)

【主な取組み内容】個々の能力に合わせた作品指導をしながら、カウンセリング強化にも努める。

【課題】授業に於いて習得すべき知識、技術は1年次の授業に集中しており、2年次では希薄になっている。これは、より早い段階で漫画制作上の基本的な部分に触れ、2年次には、より自主的に創作に取り組めるよう配慮したものだが、自主性の育っていない学生も多く、それが成績不振に繋がっている。

【改善策】2年次の夏期休暇を利用し、「東京持ち込みツアー」の実施と、卒業生との交流会を行うことで、明確な目標を与え、学生の意識の向上に繋げる。

【特記事項】平成28年度より、1年次後期に「デジタル漫画」授業を導入。

(3)学修成果 (3.0)

【主な取組み内容】雑誌編集者や、プロの漫画家として活躍している卒業生の講演等の機会を増やし、学生のモチベーションの向上を図る。

【課題】学科としては、一般的な就職は目指していない。しかし、例年2割程度居る就職希望者への対応は十分とはいえないので、キャリアサポートセンターと学科との連携、学生の就職意識の向上が必要になってくる。

【改善策】卒業制作等の関係で、漫画学科向けの就職セミナーを遅めに設定していたが、就職意識を高めるた

めには、1年次後期からの実施を検討したい。

【特記事項】卒業生の業界(漫画)での実績は、ほぼ把握出来ていると思われる。

(4)学生支援 (2.7)

【主な取組み内容】在校生向けにセミナー等を実施し、モチベーションの強化を図る。

【課題】近年、ますます学習意欲の低下と、それに伴うドロップアウトの増加が見られる。授業やセミナーを通して、目標をより明確化し、将来に対する可能性を意識させる必要がある。

【改善策】課外活動やセミナーを活用し、自分の将来に対する具体的な目標を持たせる。

【特記事項】プロとして活躍している卒業生との交流会も刺激になっている。

(5)教育環境 (2.3)

【主な取組み内容】留学生向けの模擬授業等を実施し、学生募集に繋げる。

【課題】デジタル化、グローバル化に対する適応が不足。

【改善策】平成28年度より、1年次後期に「デジタル漫画」授業を導入。(2年生は平成26年度より既に実施済)

【特記事項】以前実施していた、海外研修(フランス)での展覧会及び現地の人々との交流の必要性を再認識。

(6)社会貢献・地域貢献 (2.0)

【主な取組み内容】学生募集に繋げるため、イベント等の参加を積極的に行う。

【課題】高校から職業体験等の依頼を受け、出張授業を実施しているが、より広い範囲での交流を図る必要がある。

【改善策】学生部との連携をより強化し、様々なイベントに参加していく。

【特記事項】なし。

(7)国際交流 (2.3)

【主な取組み内容】卒業後、日本に残りたい留学生へのサポートをどうするか。

【課題】入管法の関係で、海外からの留学生が卒業後も日本に残って作品制作を続ける事が不可能。

【改善策】今のところ、有効な手立ては見出せていない。

【特記事項】卒業後、就職が出来れば滞在可能となるが、作品の制作時間の確保が厳しくなる。

4. 評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

漫画制作を中心にカリキュラムを編成し、学生の傾向・業界のニーズを踏まえて、毎年見直しを行っている。技術の習得が主となる1年次から、作品制作が大半を占める2年次への、カリキュラム移行に伴う学生のモチベーション維持のため、卒業生との交流会や出版社への持ち込みツアー等の機会を活用し、自身の将来像を明確化させていく事が必要。継続的に活躍出来る人材の育成に努めたい。

ビジュアルクリエイター学科

■自己評価ガイドライン項目の作成 課題と改善方策

1. 学科の教育目標

イラストレーション専攻、フィギュア専攻の2専攻で構成されている。イラストレーション専攻に於いては、多彩なタッチで、独自の世界を自在に表現出来、独自の世界観を表現するべく行動できるイラストレーター・絵本作家の育成を目標にしている。フィギュア専攻においては、造形力を高める教育を根幹に置き、フィギュア業界だけではなく、造形に関するあらゆる業種に対応できる人材の育成を目指す。また、以前から実施しているデジタル造形技術の教育を近年さらに注力している。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

個々の実力を高めることでクリエイターとしての活動の幅を広げ、組織の一員となった場合にも重要な役割を担えるような人材育成。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

(1)教育理念・目的・人材育成像 (3.8)

【主な取り組み内容】学生個々人がクリエイターとしてのキャリア形成を考えられるように指導。

【課題】技術的な部分だけでなく、クリエイターとして仕事を取るための個々の行動力に関して、一層の強化が必要。

【改善策】授業での現実的な仕事の話や実際の仕事現場見学などを行った上で、自分自身で考え行動できる課題を積極的に行う。

【特記事項】なし。

(2)教育活動 (3.4)

【主な取り組み内容】企業との連携では、株式会社スプーンや株式会社メガホン、関西二期会と連携した授業を実施した。

【課題】学生の日常生活におけるリサーチ・表現力の幅の狭さと作品へのこだわり、責任感の不足。

【改善策】外部との接点のある課題を通して作品へのこだわりや責任感を持たせる。

【特記事項】なし。

(3)学修成果 (2.8)

【主な取り組み内容】担任による学生カウンセリング、キャリアサポートとの連携を強化している。また卒業生の作家活動としての展覧会や卒業生からの近況報告などを聞く事で、卒業生の活動情報を授業や学生募集においても活用している。

【課題】理解力の低い学生や不登校傾向のある留学生への対応。

【改善策】教員によるカウンセリングと専攻会議を通じて講師との情報共有を図り、ドロップアウトを抑える専属スタッフの配属など。

【特記事項】特になし。

(4)学生支援 (3.1)

【主な取組み内容】キャリアサポートセンターと連携した取り組みを2年生の早い段階から就職支援としてのセミナーをスタートした事により円滑な就職活動につながった。

【課題】就職支援体制の一層の強化。

【改善策】イラストレーション専攻では就活セミナー以外に、平成29年度から1年後期にキャリア教育を授業内で行うようカリキュラムを改定。大阪での企業や地域との関係性の強化を図る。

【特記事項】なし。

(5) 教育環境 (2.7)

【主な取組み内容】インターンシップは非常勤講師と関連のある企業で実施している。

【課題】海外研修についての教育は、今後充実させる必要がある。

【改善策】カリキュラムに含めた海外実習を実施しようとするが、準備はある。

【特記事項】なし。

(6) 社会貢献・地域貢献 (3.3)

【主な取組み内容】キャンドルナイトのイベントや芝田町商店街周辺のパナー設置、阪急三番街でのクリスマスツリー設置など地域連携を意識した授業を行った。

【課題】職業実践教育として授業の充実を図り、実績をつくる。

【改善策】イラストレーション専攻では外部との取組みの一環として告知物のビジュアル制作として5年前から授業で取り組んでおり、一層の充実を図る。

【特記事項】専攻ごとに社会貢献、地域連携を意識した授業内容を積極的に行っている。

(7) 国際交流 (3.0)

【主な取組み内容】学校主催の留学生交流会での学生間の交流や進路相談など定期的にカウンセリングを行った。

【課題】留学生の日本での就職に関するサポート。

【改善策】留学生が日本で就職するためのサポート強化。キャリアサポートセンターや学園としての協力が必要。卒業生、留学生は台湾出身者が多く、卒業生が就職している台湾企業との接点を継続・強化をはかる。

【特記事項】なし。

4. 評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

専攻ごとに卒業後の進路に違いがあるが、イラストレーション専攻においてはイラストレーターとして学生作品の表現力向上と就職希望者の就職率を上げる事を目標としている。又、職業実践教育の充実のための授業強化をはかり、実績へと繋げる。

フィギュア専攻に於いては、人材の需要があるデジタル造形の教育に更なる注力を実施している。基礎造形力とデジタルオペレーションの強化との両立を目指し、就職率を上げたい。海外留学生の就職率の向上を目指している。

根本的に学生募集の方法と入学者の確保が急務であり、実践的で具体性のある課題の充実とドロップアウト

トを抑える事に重点をおく。

コミックアート学科

■自己評価ガイドライン項目の作成 課題と改善方策

1. 学科の教育目標

就職やフリーランスイラストレーターとして成り立つ標準以上の作画技術とデザインスキルを身につけられる学科とする。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

(1) 卒業後の経済的自立を目的とした就職・フリー志望者への具体的な出口対策の指導・支援

- ・ゲーム系、アプリ系、デザイン系への就職指導
- ・一般就職(可能ならデザイン業務)+作家活動の支援

(2) 描き手として個性・強みを確立する教育の強化

- ・長所、強みの磨きこみを優先したカリキュラムの高度化
- ・教員のマーケット目線での作品評価対応力の育成

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

(1) 教育理念・目的・人材育成像 (2.8)

【主な取り組み内容】出口の形態の如何に関わらず、自立し、かつ勝ち抜ける底力のある描き手の育成。

【課題】自立した描き手を目指すにあたり、セルフプロデュース、プレゼンテーション能力の向上についてさらに取組んでいきたい。

【改善策】プレゼンテーション技法、対人コミュニケーションの必須スキル標準化に取り組みたい。

【特記事項】なし。

(2) 教育活動 (2.6)

【主な取り組み内容】展示、コンベンション、産学連携や卒業後の社会と密接に関係した授業の実施。

【課題】学科の人数が多いため、産学連携プロジェクトを学科全体で課題として取り組むのは大変である。

【改善策】産学連携の取り組みで作家系、デザイン系、商業コンテンツ系にわけた枠組みで、より実践的な実習内容にしたい。

【特記事項】なし。

(3) 学修成果 (3.4)

【主な取り組み内容】進路指導の内製化の推進。

【課題】・デザインソフトの必須技能の実践力アップ(反復練習)により就職率向上を実現したい。

- ・マーケティング的な戦略思考をもてるようなカリキュラムづくりをさらに進めたい。

【改善策】デザイン系授業の教員変更も含めた改革

【特記事項】なし。

(4) 学生支援 (2.1)

【主な取組み内容】商業コンテンツ系デザイン専門職の就職活動の支援強化。

【課題】ゲームなど商業コンテンツ系就職を目指す在校生、卒業後 3 年以内の卒業生についての支援策が必要。現在の就職活動のスケジュールからは 2 年制での万全な準備は難しい。

【改善策】昼間部本科の選択 3 年制(または本科研究科)を検討したい。

【特記事項】なし。

(5) 教育環境 (2.3)

【主な取組み内容】特になし。

【課題】クラスの人数が最多となる学科の為、一人当たりの作業スペースが狭く、資料などを用意してじっくり取り組むことが難しい。また PC 教室においてもスペースの関係で、中間モニターからプロジェクターへ変更されるが、指導面でカバーできない点がある。

【改善策】中間モニター、スキャナーなど PC 周辺機器の設置を再検討したい。

【特記事項】なし。

(6) 社会貢献・地域貢献 (2.0)

【主な取組み内容】地域内ギャラリーの展示活用、企業等との連携。

【課題】教員や学生による地域への働きかけにつながる展示や発表活動、協力活動の推進。

【改善策】平成29年度に日本赤十字社との献血プロモーション協力、茶屋町画廊や大阪工業大学施設などと地域連携を意識したコンテンツ系展示、毎日放送アナウンサーカレンダーへの協力等を実施予定。

【特記事項】なし。

(7) 国際交流 (2.5)

【主な取組み内容】留学生用ハローワークの定期的な活用。

【課題】留学生の就活支援をもっと戦略的に行いたい。

【改善策】留学生向けのハローワークの活用もしているが、留学生を受け入れてくれる企業との関係づくりをすすめていきたい。

【特記事項】なし。

4. 評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

◆退学率等の問題

・長年の課題であった退学率も昨年度ようやく 10%台を切ることができた。常勤教員による全学年フォロー体制において、情報を共有し、カウンセリングや日常対応を行った成果であり、今年度も引き続きその方法論の検証を行う。

◆進路の問題

就職やフリーでの実績も着実に積みあがり、学科としての経験値も増してきている。今後は企業や業界との高度なマッチングへ取り組むとともに、「絵」で就職の新たな形、モデルケースづくりが急がれる。

◆教育環境の整備

- ・学科の人数が多い為、一人当たりの学習スペースの少なさは慢性化している。
- ・液晶タブレットの整備は理想的なタイミングで行われた。PC の新機種への入替など設備の充実も図られているが、一方でスペースの関係から中間モニターなどの周辺機器の廃止などもあり、再考を要する。

* 評価項目の達成及び取り組み状況について

各学科の大項目に記載の数値は、下記小項目を4段階評価したものの平均値である。

(1) 教育理念・目的・人材育成像

- ・学科の理念・目的・育成人材像は定められているか
- ・学科の特色は何か
- ・学科の将来構想を抱いているか
- ・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか

(2) 教育活動

- ・教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか
- ・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか
- ・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか
- ・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか
- ・関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか
- ・関連分野における実践的な職業教育(産学連携による職業体験・インターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか
- ・授業評価の実施・評価体制はあるか
- ・職業教育等に対する外部関係者からの評価を取り入れているか
- ・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか
- ・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか
- ・人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか
- ・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務を含む)を確保するなどマネジメントが行われているか
- ・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか
- ・職員の能力開発のための研修等が行われているか

(3) 教育成果

- ・就職率の向上が図られているか

- ・資格取得率の向上が図られているか
- ・退学率の低減が図られているか
- ・卒業生・在校生の社会的な活動及び評価を把握しているか
- ・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか

(4) 学生支援

- ・進路・就職に関する支援体制は整備されているか
- ・学生相談に関する体制は整備されているか
- ・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか
- ・学生の健康管理を担う組織体制はあるか
- ・課外活動に対する支援体制は整備されているか
- ・学生の生活環境への支援は行われているか
- ・保護者と適切に連携しているか
- ・卒業生への支援体制はあるか
- ・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか
- ・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか

(5) 教育環境

- ・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか
- ・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか
- ・防災に対する体制は整備されているか

(6) 社会貢献

- ・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域連携を行なっているか
- ・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか
- ・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか

(7) 国際交流

- ・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか
- ・留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか
- ・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか
- ・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか